Scope3算定の『実務の悩み』：
ゼロからの構築と、これからの信頼づくり

- **会社概要**
- **Scope3算定の背景**
- **算定プロセス～実務の葛藤**
- **今後の展開**

2026年3月2日
グンゼ株式会社
技術開発部　環境戦略推進室

会社概要



グンゼ綾部本店（1933年・Ｓ8年）



グンゼ記念館（1917年・Ｔ6年）



大阪本社（ハービスＯＳＡＫＡ２２階）

- 設立　：1896年(明治29年)
- 本店　：京都府綾部市(創業の地)
- 本社　：大阪府大阪市(1963年～)
- 資本金　：261億円
- 従業員数：1,449名(単体)
  4,883名(連結)
- 売上高　：1,371億円(2025年3月期)

会社概要（130年の先へ挑む、私たちの、「未来宣言」です）

読めない、GUNZE。

GUNZE SINCE 1896

「グンゼ」と読みます。
実は、2026年に創業130周年を迎えます。

糸からインナーウェア、プラスチック、医療へ、
次々と挑戦を広げて。
いろんな“ここちよさ”を届けてきた会社です。

創業から130年経っても、まだまだ未知数で、
本気で未来を変えようとしている会社です。

読めないのは、名前だけじゃない。
これからの、可能性。

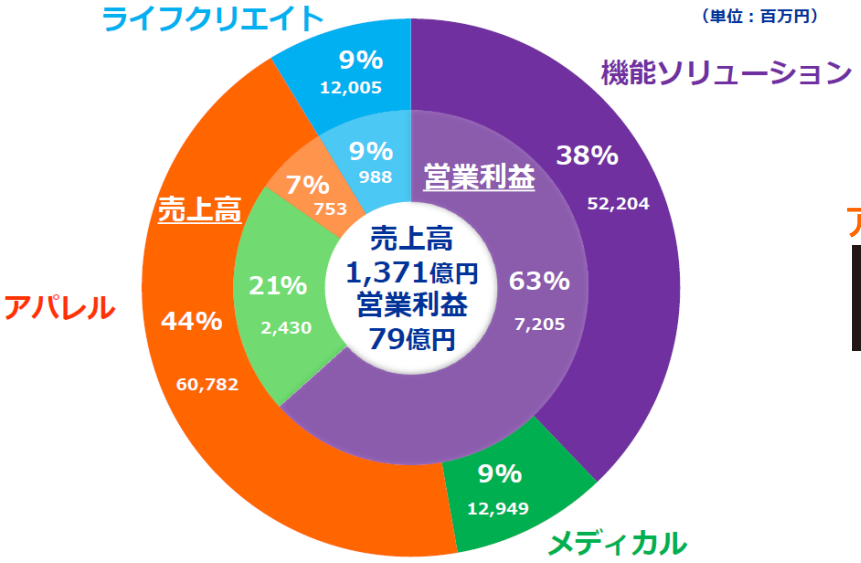
まだ見ぬ価値を、まだ世界にない
“ここちよさ”をつくる。

読めない、GUNZE。
130年の先へ挑む私たちの、未来宣言です。

会社概要

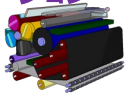
セグメント別構成比

（単位：百万円）



機能ソリューション





- プラスチックフィルム分野
- エンジニアリングプラスチックス分野
- メカトロ分野

メディカル





- メディカル分野

アパレル







- インナーウェア分野
- レッグウェア分野
- ライフスタイルアパレル分野
- 繊維資材分野

ライフクリエイト



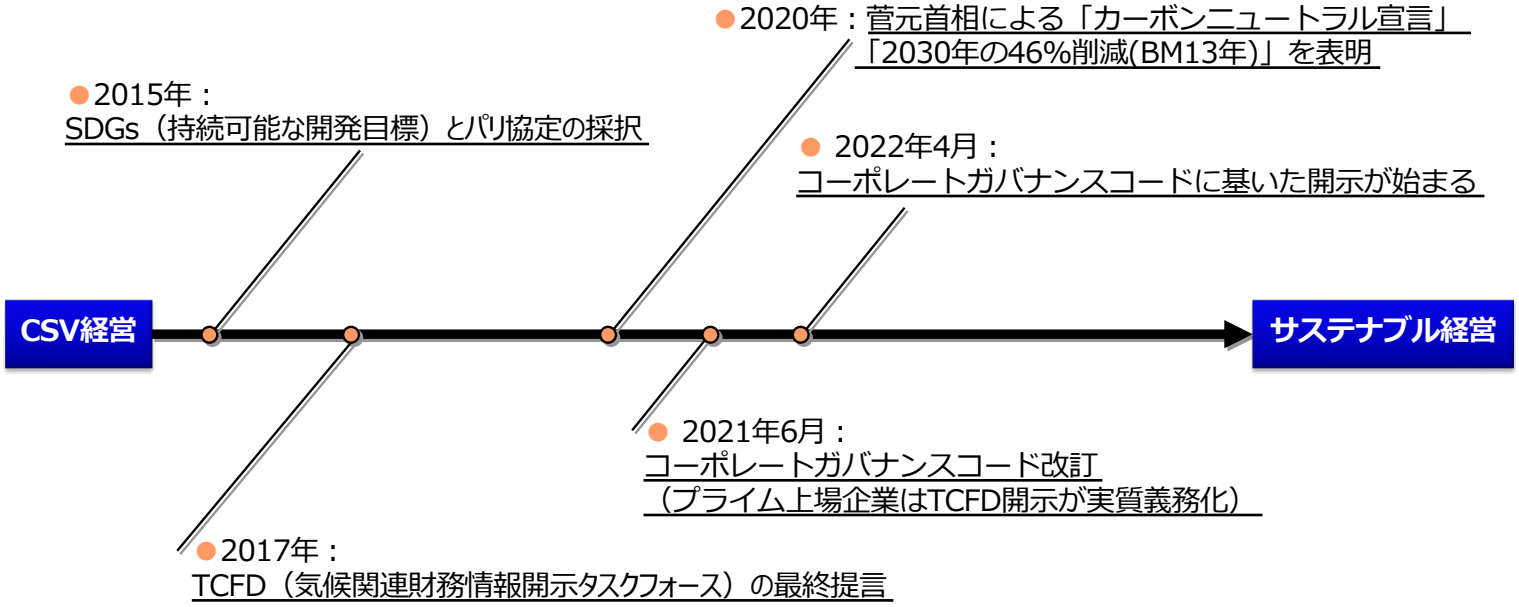




- 不動産関連分野
- スポーツクラブ分野
- 環境緑化分野

Scope3算定の背景（サステナブル経営へのパラダイムシフト）

CSV経営からサステナブル経営へ

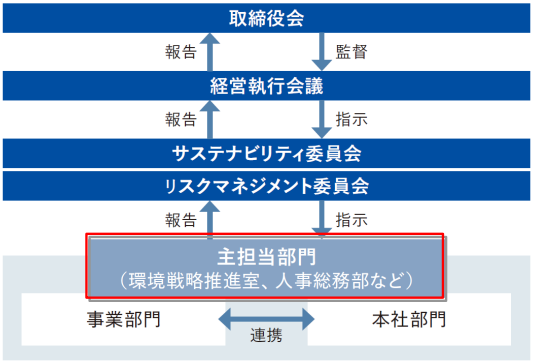


Scope3算定の背景（当社サステナブル経営の推進）

ステークホルダーから「選ばれ続ける企業」に向けて

- 2020年　　：国連グローバルコンパクトへ加盟
- 2021年4月　：サステナビリティ委員会の発足
  2021年8月　：環境戦略推進室の発足（Scope3算定が発足時のメインミッション）
- 2021年10月：TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）賛同

サステナビリティ推進体制



ニュースリリース



2021年10月28日
グンゼ株式会社

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同およびTCFDコンソーシアムへの参画について

グンゼ株式会社（本社：大阪市北区、社長：佐口　敏康）は、2021年10月、金融安定理事会(FSB)により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース(以下、TCFD)」提言への賛同を表明するとともに、「TCFDコンソーシアム」に加盟したことをお知らせいたします。

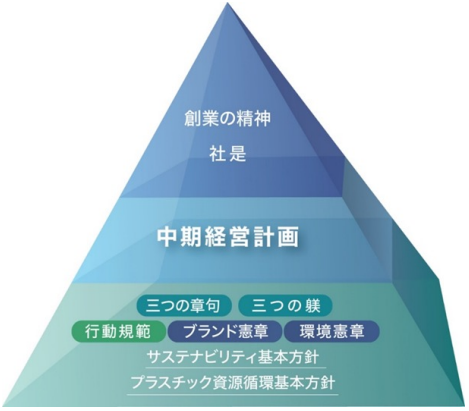
グンゼグループでは、SDGｓ目標を中期経営計画「CAN20」に取り込みスピード感をもって達成できるよう、サステナビリティ重要課題を「グンゼのマテリアリティ」として特定し、事業を通じた社会課題の解決に取り組んでおります。
今般のTCFD（注１）提言への賛同表明ならびにTCFDコンソーシアム（注２）への加盟により、提言に基づく自主的かつ積極的な情報開示を進めてまいります。
グンゼグループは、これからも環境や気候変動への対応を重要課題ととらえ、事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品開発等を通じ、中長期的な社会課題の解決に取り組んでまいります。

TCFD　TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES　TCFD Consortium

Scope3算定の背景（当社サステナブル経営の推進）

- 2022年　：サステナブル経営の基本戦略「環境に配慮した経営」を中期経営計画に組み込む

「経済的価値」と「社会的価値」を両立させるサステナブル経営を通じて、
企業価値の持続的向上を目指します



サステナブル経営におけるマテリアリティを特定した４つの基本戦略



「環境に配慮した経営」を推進

算定のプロセス

ゼロからのルール構築と組織の巻き込み

■2021年9月から Step1（基盤構築）7ヶ月

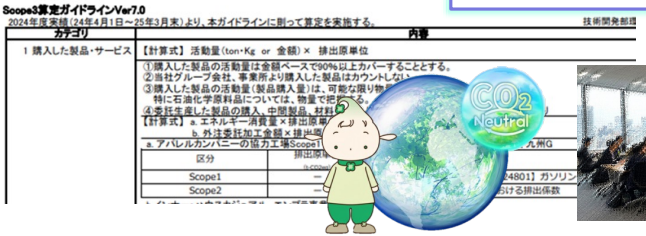
- 外部コンサル選定活用
- サプライチェーン全域に及ぶ マテリアルフローを整理
- 算定ルールの明確化

■11月から Step2（仕組み化）5ヶ月

- 事業部門とのコミュニケーション 円滑化のため、事業部門窓口設定
- 活動量データ収集フローの構築

■12月から Step3（ﾏｲﾝﾄﾞｾｯﾄ）4ヶ月

- Scope1,2,3基礎解説、社内ｾﾐﾅｰ
- 全社的な算定説明会の開催
- 『脱炭素経営への参画』であると いう共通認識の醸成、社内浸透 （社内イントラネットを継続活用）







「脱炭素社会ってなんだろう？」
環境問題について解説した動画を公開
このためにデザインした
グンゼオリジナルキャラクター（エコロちゃん）

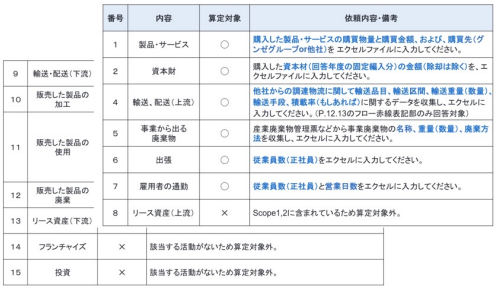
実務の葛藤（初年度）

社内で経験のない新しいことを始めることの難しさ

（初回算定のトラブル・苦労）

- 事業部門ごとのScope3担当者を選出
- 全社オンライン説明会を複数回開催
- 事業部門ごとに、サプライチェーン全域（原材料購入～完成品販売まで）の商流の整理
- 膨大なローデータを汎用的な区分に集約し、原単位（2次データ）に合わせた粒度で集計

  初年度は③④の2次データを採用

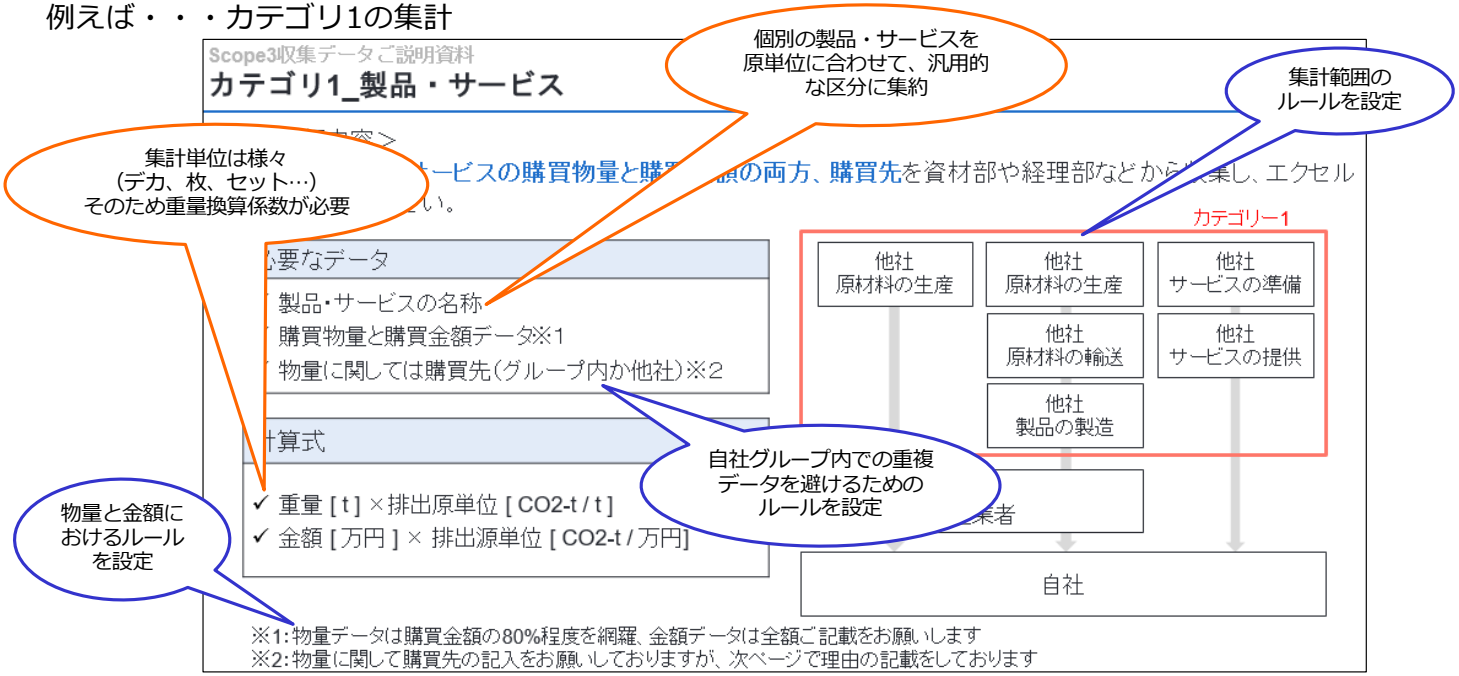


番号	内容	算定対象	依頼内容・備考
1	製品・サービス	○	購入した製品・サービスの購買物量と購買金額、および、購買先（グンゼグループor他社）を エクセルファイルに入力してください。
2	資本財	○	購入した資本材（回答年度の固定編入分）の金額（除却は除く）を、エクセルファイルに入力してください。
4	輸送、配送（上流）	○	他社からの調達物流に関して輸送品目、輸送区間、輸送重量（数量）、輸送手段、積載率（もしあれば）に関するデータを収集し、エクセルに入力してください。（P.12 13のフロー赤線表記部のみ回答対象）
5	事業から出る廃棄物	○	産業廃棄物管理票などから事業廃棄物の名称、重量（数量）、廃棄方法を収集し、エクセルに入力してください。
6	出張	○	従業員数（正社員）をエクセルに入力してください。
7	雇用者の通勤	○	従業員数（正社員）と営業日数をエクセルに入力してください。
8	リース資産（上流）	×	Scope1,2に含まれているため算定対象外。
9	輸送・配送（下流）		
10	販売した製品の加工		
11	販売した製品の使用		
12	販売した製品の廃棄		
13	リース資産（下流）		
14	フランチャイズ	×	該当する活動がないため算定対象外。
15	投資	×	該当する活動がないため算定対象外。

	排出源単位	上流部分から排出される温室効果ガス排出量	サプライヤーのScope1,2	メリット	デメリット
①	サプライヤーデータ（1次データ）活用	サプライヤーから取得	サプライヤーから取得	削減が可能	取得が困難
②	1次データと2次データをハイブリッド	平均データ (IDEA、環境省DB)	サプライヤーから取得	削減が可能	取得が困難
③	重量原単位(2次データ)を活用	平均データ (IDEA、環境省DB)	取得せず	取得が容易	削減が困難
④	購買額原単位(2次データ)を活用	平均データ (IDEA、環境省DB)	取得せず	取得が容易	削減が困難

実務の葛藤（初年度）

例えば・・・カテゴリ1の集計



実務の葛藤（2年目以降）

算定効率化と数値の確からしさ向上



（新たな課題：算定効率化が必要）

- 人的ミス等による出戻り工数発生

  ⇒　工数負荷増により事業活動を阻害しないよう、マクロ・集計システムによる算定自動化を推進

- 開示情報の鮮度向上に向けた算定早期化

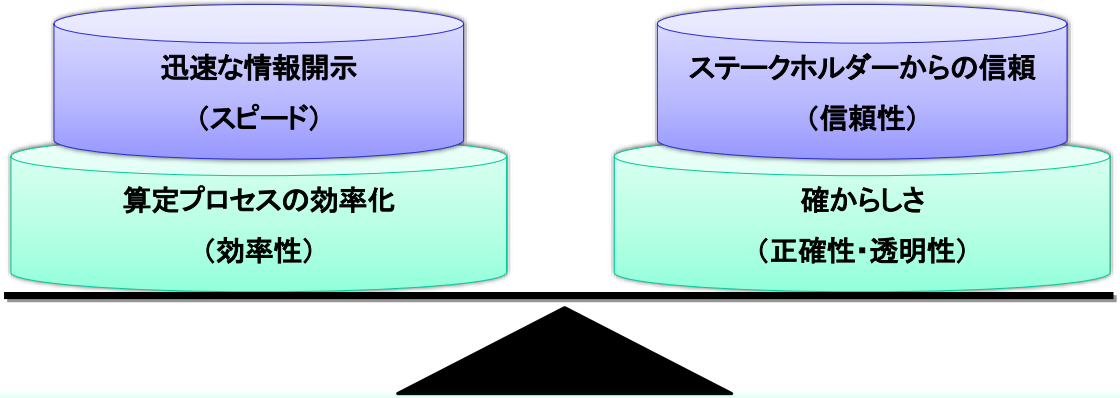
（新たな課題：数値の確からしさが必要）

- Scope3算定値を新たな対外情報開示（CDP , CFP等）へ活用
- 環境対応状況をステークホルダーに示し、企業価値を高めるには情報の正確性・透明性が必須

今後の展開

ステークホルダーからの信頼獲得により、選ばれ続ける企業へ

- 算定プロセスの効率化を推進し、迅速な情報開示
- 数値の確からしさ確保のため、『第三者保証』の取得



迅速に信頼性の高いデータを提供し続けることは、サプライチェーンにおける不可欠な存在として選ばれる

未来「明日」×進化「もっと」×人と地球に寄り添う「ここちよく」

明日をもっと、ここちよく

読めない、GUNZE。

GUNZE SINCE 1896